

研究主題

小・中学校における読解力の向上を図るための研究 各教科等の指導を通して

目 次

研究の背景とねらい	88
1 研究のねらい	88
2 研究の背景	88
読解力に関連する調査研究及び先行研究の分析	89
1 国及び東京都の学力向上にかかわる調査分析	89
2 国語力向上モデル事業研究推進校の実践分析	91
研究の基本的な考え方	92
1 「読解力」の構成要素を示すための根拠	92
2 本研究における読解力のとらえ方	94
研究の具体的内容	97
1 読解力の向上を図る指導の工夫	97
2 読解力の向上を図るための具体的事例	98
(1)指導の工夫 読む活動	98
小学校第3学年算数	98
中学校第2学年国語	100
(2)指導の工夫 表す活動	102
小学校第5学年国語	102
小学校第5学年理科	104
(3)指導の工夫 機会の充実	106
中学校第1学年国語	106
研究の成果及び課題	108

< 研究の成果と活用 >

1 読解力の構成要素を示したこと

文部科学省「読解力向上に関する指導資料」を基に、読解力の構成要素を「取り出す」「まとめる」「創り出す」とし、併せて構成要素の役割を示した。

2 具体的な授業展開例の開発

読解力の向上を図るための重点目標を基に授業展開に必要な配慮事項等を示した。

実際の指導を例に、読解力を高めるための有効な手だてを提案した。

研究のねらいと背景

1 研究のねらい

本研究では、ねらいを「小・中学校における読解力の向上を図るための研究」とし、読解力の構成要素とその役割を明確にし、小・中学校の各教科・領域等において、児童・生徒の読解力を向上させるための指導資料の開発を行うこととした。開発した指導資料の概要は次のとおりである。

読解力の指導の工夫と具体的な指導の手だて
読解力向上を図る指導事例

2 研究の背景

平成 17 年 12 月に発行された文部科学省「読解力向上プログラム」では、平成 15 年 7 月に実施された O E C D（経済協力開発機構）による P I S A 調査（生徒の学習到達度調査）の結果について次のように示している。

P I S A 調査は、今回の調査では 41 か国/地域が参加している。知識や技能等を実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるのかについて、「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」「問題解決能力」の 4 分野にわたり主に記述式で解答を求める問題により調査が行われた。この調査の結果では、我が国の児童・生徒の学力は、「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」「問題解決能力」の得点について、いずれも一位の国とは統計上の差がなかったものの「読解力」の得点については、O E C D の平均程度まで低下している状況にあるなど課題が示された。（表 1 参照）また、平成 12 年度実施の同調査と比較すると、読解力の平均得点が参加国中 8 位から 14 位になっているという結果が出された。

また、東京都教育委員会の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」における平成 16・17 年度の結果を比較すると、読む能力の平均正答率が、小学校、中学校ともに低下傾向にある。さらに、情報を活用する能力、記述式の問題など、読解力と関係する力について国語科以外の各教科でも課題が見られる。この傾向は、平成 15 年実施の国際数学・理科教育同行調査（T I M S S 2003）においても同様である。

これらのことから、我が国や東京都において、児童・生徒の読解力の向上が、重要な課題となっていることが分かる。

P I S A 調査で定義付けられている読解力とは、学習指導要領等で示される従来の読解力と必ずしも同じではない。P I S A 調査では読解力を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義している。また、対象となる文章・資料も文章で表されるもののみではなく、図、表などの非連続型テキストと呼ばれるものをも含む。従って P I S A 調査の読解力を向上させるための指導は、全教科、領域において求められるものである。

以上のことから、本研究では、国語科を中核としながらも、全教科で読解力を身に付けるための手だてを研究する。

換言すれば、児童・生徒に P I S A 型読解力を身に付けさせる指導を各教科等において意図的・計画的に行えば、質的に授業等が向上し、児童・生徒の学力向上が図れるであろうと考え、本研究のねらいを設定した。

（表 1） P I S A 2003 における平均得点の国際比較

	数学的リテラシー	読解力	科学的リテラシー	問題解決能力
1	香港	フィンランド	フィンランド	韓国
2	フィンランド	韓国	日本	香港
3	韓国	カナダ	香港	フィンランド
4	オランダ	オーストラリア	韓国	日本
5	リヒテンシュタイン	リヒテンシュタイン	リヒテンシュタイン	ニュージーランド
6	日本	ニュージーランド	オーストラリア	マカオ
7	カナダ	アイルランド	マカオ	オーストラリア
8	ベルギー	スウェーデン	オランダ	リヒテンシュタイン
9	マカオ	オランダ	チェコ	カナダ
10	スイス	香港	ニュージーランド	ベルギー
11	オーストラリア	ベルギー	カナダ	スイス
12	ニュージーランド	ノルウェー	スイス	オランダ
13	チェコ	スイス	フランス	フランス
14	アイスランド	日本	ベルギー	デンマーク
15	デンマーク	マカオ	スウェーデン	チェコ

読解力に関連する調査研究及び先行研究分析

1 国及び東京都の学力向上にかかわる調査分析

(1) 国際学力調査

平成 16 年 12 月に、2 つの国際学力調査の結果が公表された。2 つの学力調査とは、「生徒の学習到達度調査」(P I S A 2003) と「国際数学・理科教育動向調査」(T I M S S 2003) である。

P I S A 調査は、O E C D によって実施され、今回の調査では 41 か国・地域が参加した。義務教育終了段階にある生徒が、文章のような「連続型テキスト」及び図表のような「非連続型テキスト」を読み、これらを広く学校内外の様々な状況に関連付けて、組み立て、展開し、意味を理解することをどの程度行えるかをみることをねらいとしてこの調査は実施され以下のような結果が示された。

- ・我が国の学力は、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力が 1 位グループであるなど全体として国際的に見て上位である。
- ・読解力は O E C D 平均と同程度であるなど低下傾向にあり、世界トップレベルとは言えない状況である。
- ・授業を受ける姿勢はよいが学ぶ内容に興味がある生徒が少ない。学校以外の勉強時間が短い。

T I M S S 調査は、I E A (国際教育到達度評価学会) によって実施され、今回の調査では小学校 4 年生対象分については 25 か国・地域、中学校 2 年生対象分については 46 か国・地域が参加した。我が国では、平成 15 年 2 月に、小学校 4 年生約 4,500 名、中学校 2 年生約 4,900 名を対象に実施された。学校のカリキュラムで学んだ知識や技能等がどの程度習得されているのかについて、算数・数学及び理科の学習内容に関し、上述の P I S A 調査に比べて、より多くの選択肢式で解答を求める問題で調査が行われ以下のような結果が示された。

- ・我が国の児童・生徒の学力は、全体として国際的に見て上位である。
- ・小学校理科、中学校数学は前回より得点が低下している。
- ・テレビやビデオを見る時間が長く、家の手伝いをする時間が短い。

これらの国際学力調査の結果から以下のような課題が明らかとなり改善の方向が示された。

	課 題	改善の方向
読 解 力	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの解釈、熟考・評価に課題がある。 ・自由記述(論述)の設問に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを理解・評価しながら読む力を高めること ・テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること ・様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
数学的 リテラシー 算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算技能、数についての感覚などに課題がある。 ・解釈を要する設問、自由記述形式の設問に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的計算技能の定着や数量・図形などの基本的な意味の理解を確実にすること ・数学的に解釈する力や表現する力の育成を目指した指導を充実すること ・実生活と関連付けた指導の充実を図り、数学について有用性を実感する機会をもたせること
科学的 リテラシー 理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な解釈や論述形式の設問に課題がある。 ・日常生活との関連の深い設問に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的に解釈する力や表現する力の育成を目指した指導を充実すること ・日常生活に見られる自然事象との関連や他教科等との関連を図った指導を充実すること
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲、学習習慣等に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察や実生活との関連を重視した指導、目標設定や評価の工夫などにより学習意欲を高める指導を充実すること ・宿題や課題を適切に与えることや、学習ガイダンスの充実等を通じて、学習習慣や学習規律を確立すること

(平成 16 年度臨時全国都道府県・指定都市教育委員会指導主事会議配付資料よりを参考に作成)

(2) 教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所）

国立教育政策研究所では、小学校及び中学校の学習指導要領（平成10年告示）に基づく教育課程の実施状況について学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を把握し、今後の教育課程や指導方法の改善に資するために、平成13年度、平成15年度に教育課程実施状況調査を行った。

小学校第5・6学年、中学校第1学年から第3学年を対象とし、小学校は、国語、社会、算数、理科の4教科、中学校は小学校の4教科に加え英語で実施された。

小・中学校における教育課程実施状況調査では、次のような結果が出された。前回調査(平成13年度)との同一問題の通過率の比較では、中学1年社会・数学において前回は有意に下回る問題数が有意に上回る問題数よりも多い。記述式問題においては、のべ23教科のうち、小学6年・中学1・2年の国語、中学1年の数学、中学1・3年の英語で設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数が半数未満。(設定通過率：学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値)

各教科では以下のような課題が明らかになった。

教科	課題
国語	・場面に応じて立場を明らかにし自分の考えを書くこと ・筆者の表現の方法や工夫を評価すること ・条件や目的に応じ、自分の考えを相手に伝えること
社会	・統計資料の読み取り・活用や自分の考えの表現について
算数 数学	・計算、数量関係の意味を理解すること。 ・数学的に解釈したり、自分の考えや推論の過程を数学的に表現したりすること
理科	・観察・実験を通じた科学的な思考について ・学習内容相互の関連付けを図った理解について
英語	・情報を整理したり、対話の流れを理解したりして読むこと ・与えられたトピックについて内容を考え、まとめた英語で表現すること

(「平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査結果の概要」及び「平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査分析結果のポイント」を参考に作成 国立教育政策研究所 平成17年4月発行より抜粋)

(3) 児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）

東京都教育委員会では、児童・生徒一人一人の各教科の学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を把握し、それを指導方法の改善に結び付けることにより「確かな学力」の一層の定着に生かすことを目的として、平成15年度から毎年、児童・生徒の学力向上を図るための調査を実施している。小学校第5学年、中学校第2学年を対象とし、小学校は国語、社会、算数、理科の4教科、中学校では小学校の4教科に加え英語で実施している。

平成17年度の調査における小学校第5学年、中学校第2学年の学力定着状況は、総合的にはおおむね良好である。しかし、各教科とも観点別の全都平均正答率の一番低いのは、「思考・判断」又は「表現」で、特に顕著に表れているのは、小学校算数の「数学的な考え方」47.7%、中学校英語の「表現の能力」64.2%「理解の能力」64.3%であった。このことから読解力に関する観点に課題があることが読み取れる。又、各教科では以下のような課題が明らかとなった。

教科	小学校	中学校
国語	・表現のよさや効果を感じ取りながら読む力や要旨をとらえる力が十分ではない。	・異なる文章を読み、比較して、必要な情報を集め活用する力が十分ではない。
社会	・統計資料から読み取った事実を基に、事実が示す因果関係や傾向性がもつ意味などについて考える力が十分でない。	・資料を基に考察することが十分ではない。
算数	・乗数が小数の場合の計算の仕方を、児童自らが考え出すことに課題が見られる。	・事象の中に数量の関係を見だし考察する力の定着が十分ではない。
理科	・共通点をとらえ、それを適用して類推する力の定着に課題が見られる。	・音の波形の様子から、振動数や振幅について考察することに課題が見られる。
英語		・質問と正対した答え方をすることに対して課題が見られる。

(平成17年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果についてを基に作成 教育庁 平成18年6月8日発行)

2 国語力向上モデル事業研究推進校の実践分析

文部科学省は、平成15年度から学力向上アクションプランの一環として国語力向上モデル事業を実施している。国語力向上に総合的に取り組むモデル地域の指定を受けて、国語力向上モデル事業推進校では、学校はもとより地域と連携して児童・生徒の国語力を向上させるための方策を研究している。都内公立学校の国語力向上モデル事業推進校の研究紀要等から、国語力を身に付けさせるための活動を分析したのが以下の表である。

活動 推進校	理解・表現する活動				理解する活動				表現する活動				その他		
	コミュニケーション能力	話し合う	伝え合い	学び合う	理解する力	読む	聞く	音読	表現力	書く	話す	朗読	読書活動	読み聞かせ	言語環境
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															

国語力を育てる活動として、理解する活動・表現する活動のどちらにも取り組み、共に高めようとする推進校が24校中22校と全体の92%であった。(理解・表現する活動、理解する活動、表現する活動、のどちらの活動も行っている学校の合計)

自分の考えを相手に伝えるように話し、相手の考えを受け止める中で考えを培う力を大切であると考えたり、表現力を高めるために指導を工夫したりしている学校が多い。

また、国語力を育てる活動として、読書活動の推進や読み聞かせに取り組んでいる学校が全体の3分の2、言語環境を整える活動に取り組んでいる学校が全体の3分の1ある。このことから読解力は、すべての教育活動の中で育てることが必要であると考えている学校が多いことがわかる。

(平成15～18年度 都内公立学校国語力向上モデル事業推進校研究紀要等より)

研究の基本的な考え方

1 読解力の構成要素を示すための根拠

読解力の構成要素とその役割をとらえるにあたり、読解力の定義にかかわる内容を「読解力向上プログラム」(文部科学省)、「これからの時代に求められる国語力について」(文化審議会答申)等から整理した。

(1) 読解力向上プログラム

「読解力向上プログラム」では、読解力について次のように示している。

PISA調査は、読解の知識や技能を実生活の様々な面で直面する課題においてどの程度活用できるかを評価することを目的としており、これは現行学習指導要領がねらいとしている「生きる力」「確かな学力」と同じ方向性にある。また、学習指導要領国語では、言語の教育としての立場を重視し、特に文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることが重視されており、これらはPISA型「読解力」と相通ずるものがある。(「読解力向上プログラム」文部科学省平成17年)

読解力向上プログラムの内容について

PISA型「読解力」の定義

「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」

PISA調査の問題に見られる読解力のプロセス

- ・ 「テキストの中の情報の取り出し」
- ・ 書かれた情報から推論して意味を理解する「テキストの解釈」
- ・ 書かれた情報を自らの知識や経験に位置付ける「熟考・評価」

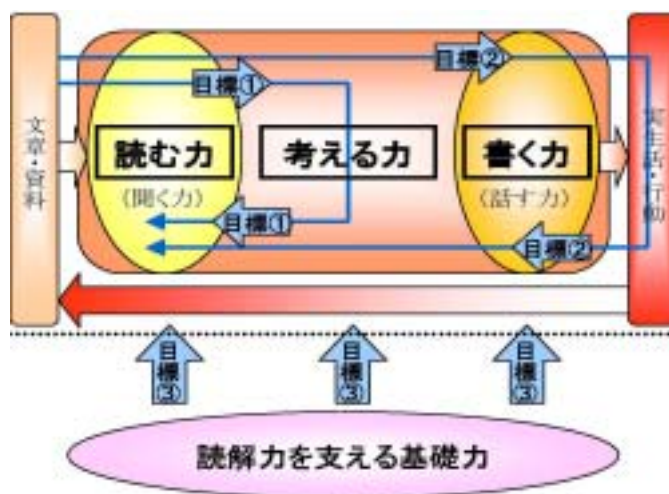
我が国の子供は、このうち「テキストの解釈」「熟考・評価」で課題があった。また、出題形式では、自由記述の問題に課題があった。

PISA型「読解力」で扱うテキストには、「連続型テキスト」と呼ばれる文章で表されたものだけでなく、「非連続型テキスト」と呼ばれるデータを視覚的に表したものも含まれている。

連続型テキスト.....物語・解説・記録等 非連続型テキスト...図・地図・グラフ等

PISA調査の「読解力」とは、「Reading Literacy」の訳であるが、わが国の国語教育等で従来用いられてきた「読解」ないしは「読解力」という語の意味するところとは大きく異なる。

読解力向上プログラム全体像



学校での取組

- 3つの重点目標 -

【目標 ①】
テキストを理解・評価しながら「読む力」を高める取組の充実

【目標 ②】
テキストに基づいて自分の考えを「書く力」を高める取組の充実

【目標 ③】
様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

(平成17年12月文部科学省)

(2) これからの時代に求められる国語力について

平成 16 年 2 月に文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」が出された。この中で国語力の内容について次のように示している。

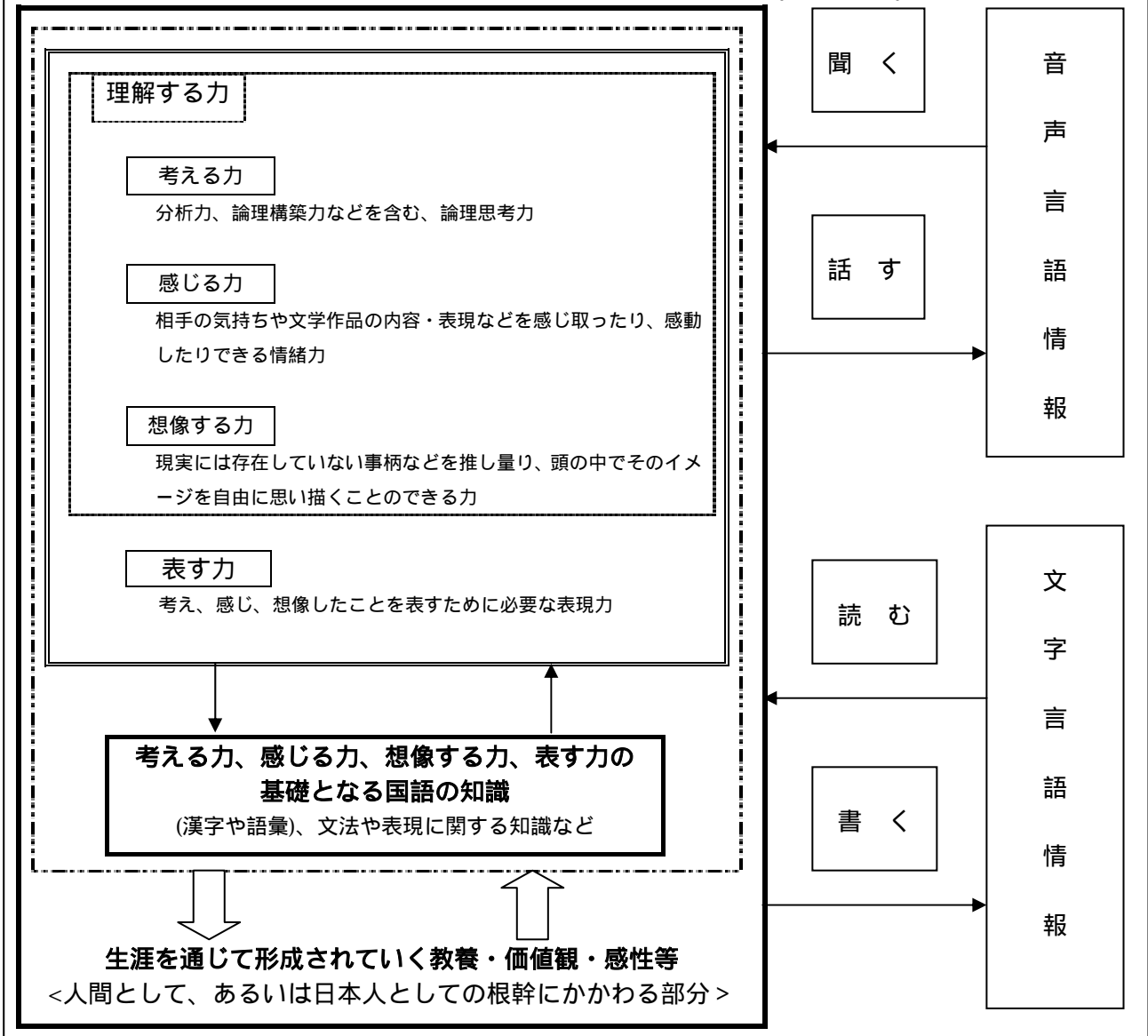
国語力の中核を成す領域は、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の 4 領域によって、構成されている。これらは、言語を中心とした情報を「処理・操作する能力」であり、国語力の中核と考えられるものである。

また、この 4 領域の力が具体的な言語活動として発現したものが、「聞く」「話す」「読む」「書く」という行為であると考えられる。日常の言語生活の中では、この「聞く」「話す」「読む」「書く」という言語活動が様々な状況に応じて、複雑に組み合わせられて用いられている。

「これからの時代に求められる国語力について」

- 【考える力】 分析力、論理構築力などを含む、論理的思考力
- 【感じる力】 相手の気持ちや文学作品の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力
- 【想像する力】 経験していない事柄や現実には存在していない事柄などをこうではないかと推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力
- 【表す力】 考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力

<参考> これからの時代に求められる「国語力」の構造（モデル図）



(3) 読解力と国語力との関係

「読解力向上プログラム」文部科学省で示された読解力と、文化審議会の「これからの時代に求められる国語力について」の国語力との関係を整理しておく必要がある。

読解力向上プログラムの全体像では読む力（聞く力）と書く力（話す力）は考える力が中核となっていることを示している。さらに、この考える力の中に「取り出し」「解釈」「熟考・評価」という構成要素があると判断することができる。

一方、「これからの時代に求められる国語力について」では、国語力の構成要素を、「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」としている。

読解力と国語力を表にまとめると次のとおりになる（表2）。このように、読解力とは、読むときや書くときに中核となる考える力であり、考える力には、理解する力（読む力や聞く力）と表す力（書く力や話す力）が含まれている。つまり、読解力も国語力も共に考える力や表す力を重視していることが分かる。

（表2） 読解力と国語力の関係

読解力	国語力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 考える力 <ul style="list-style-type: none"> 読む力（聞く力） 書く力（話す力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考える力 ・ 感じる力 ・ 想像する力 <p>理解する力</p> <p>表す力</p> <p>基盤となる国語の知識</p>

参考文献

小・中学校学習指導要領（昭和22年試案版から平成10年改定版まで）
 文化芸術振興基本法（平成13年）・子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年）・中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（平成14年）・東京都子ども読書活動推進計画（平成15年）・学力向上アクションプラン（平成15年）・文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（平成16年）・東京都教育ビジョン（平成16年）・文字・活字文化振興法（平成17年）・中央教育審議会教育分科会教育課程部会経過報告（平成18年）・読解力向上に関する指導資料（平成17年）・読解力向上プログラム（平成17年）・東京都教育委員会の基本方針に基づく主要施策（平成17年度・平成18年）
 教育課程実施状況調査結果（平成14年・平成16年）・児童生徒の学力向上を図るための調査報告書（平成15年度、平成16年度、平成17年度）・OECDによるPISA調査（平成12年・平成15年）・TIMSS（国際数学・理科教育動向調査）（平成10年・平成15年）
 国語力向上モデル事業研究推進校・読解力向上のための図書館ガイドブック（平成18年12月東京都教育委員会）

2 本研究における読解力のとらえ方

(1) 読解力の構成要素

「読解力向上に関する指導資料」（文部科学省）では、読解の過程をPISA調査の問題の特徴から次のように3つの観点でとらえている。

単なる「テキストの中の情報の取り出し」だけでなく、書かれた情報から推論し意味を理解する「テキストの解釈」、書かれた情報を自らの知識や経験に位置付ける「熟考・評価」の3つの観点

このことから、本研究では、読解の過程または構成要素を、以下の3点とした。

- | | |
|------------------------------|----------|
| 1 情報の取り出し（「取り出し」） | = 「取り出す」 |
| 2 情報から推論し意味を理解する（「解釈」） | = 「まとめる」 |
| 3 情報を自らの知識や経験に位置付ける（「熟考・評価」） | = 「創り出す」 |

さらに、この過程または構成要素の役割を以下のように考えることとした。

「取り出す」では、文章や資料等の内容を正しくとらえる

この過程を「取り出す」としたのは、ここでは「肯定的にとらえて理解する」ことが必要であり、文章や資料等の内容を正しくとらえるという意味で「取り出す」過程として表すことにした。

「まとめる」では、上記でとらえた内容を解釈する

この過程を「まとめる」としたのは、ここでは「内容や筆者の意図などを解釈することが必要」であり「解釈」とは、様々な情報を比較し推論していきながら意味を理解していく活動なので、情報を「まとめる」過程として表すことにした。

「創り出す」では、解釈した内容を自分の経験や知識に結び付けて、理解、評価する

この過程を「創り出す」としたのは、ここでは「内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさなどを理解・評価したり、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判したりするような読み」が大切となり、「取り出す」「まとめる」過程を経て、自分の知識や経験という、新たな情報との関連の上で、創造していく過程であるので「創り出す」過程として表すことにした。

また、上の3点の構成要素は、学習したことを表す活動を伴っている。

この構成要素の役割の「文章や資料等」のうち、「文章」を物語、解説、記録など、「資料」をデータ、図、地図、グラフなどとした。

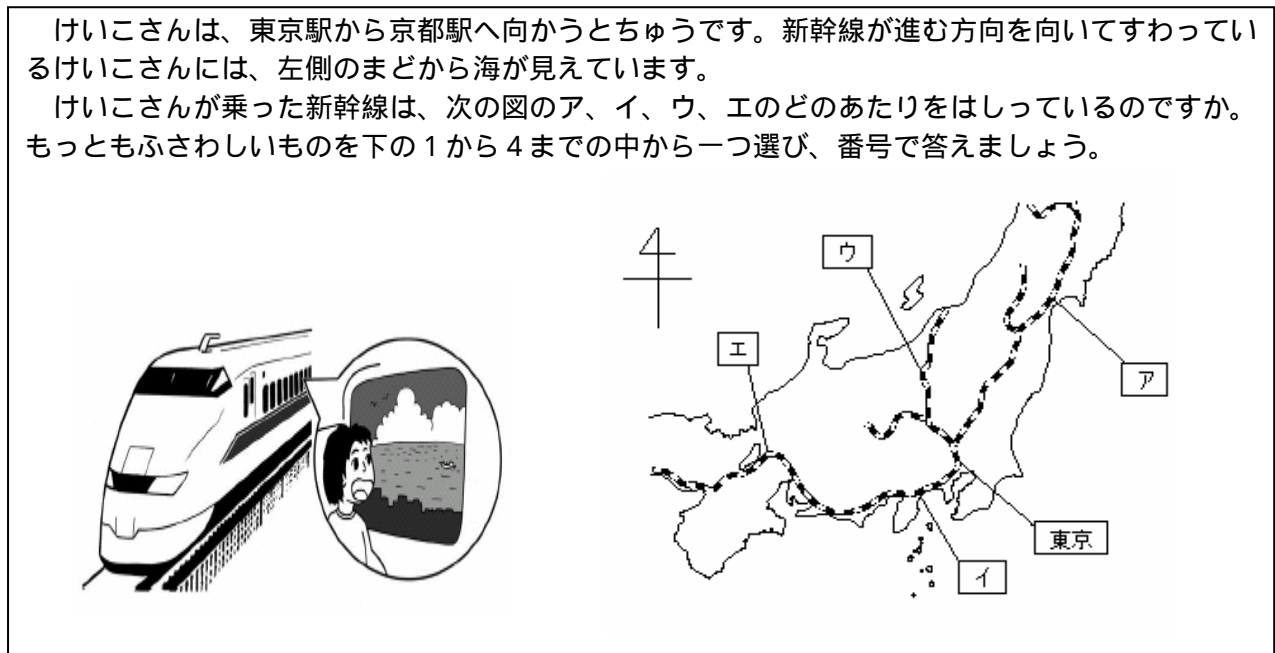
表す方法としては、主に「文章に書いて表す」、「発表や討論などで表す」、「図やグラフ、絵などで表す」、「ものづくりや身体表現で表す」とした。

東京都教育委員会が実施している「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、平成18年度から各教科の学習で身に付けた知識や技能、思考力や判断力等を活用して、問題解決を図るために必要な諸能力を観点として作成した「問題解決能力等」に関する調査を実施している。例えば、次のような問題について、児童に読解力を向上させるための指導の工夫は次のような発問を工夫することにより、以下のような学習活動の展開を想定することができる。

【読解力の構成要素の視点を生かした学習活動例】

けいこさんは、東京駅から京都駅へ向かうとちゅうです。新幹線が進む方向を向いてすわっているけいこさんには、左側のまどから海が見えています。

けいこさんが乗った新幹線は、次の図のア、イ、ウ、エのどのあたりにはしっているのですか。もっともふさわしいものを下の1から4までの中から一つ選び、番号で答えましょう。



(平成18年度実施 対象 小学校第5学年)

取り出す

T：問題文や線路の図から問題を解くために必要なことを正しく取り出しましょう。

C：けいこさんは、東京駅から京都駅へ向かうとちゅうです。

C：左側の窓から海が見えています。

C：この図には、線路、東京の位置、東西南北が示されています。

まとめる

T：取り出した内容を整理すると、どのようなことが分かりますか。

C：問題文から、けいこさんは東京駅から出発していることが分かります。地図では、海の近くを走っているのは「ア」と「イ」なので、左側に海が見えるのは「イ」だと思います。

創り出す

T：答えが「イ」になる訳を他の資料なども使って詳しく説明してください。

C：けいこさんが向かったのは京都駅です。京都駅は（地図帳を使って）ここに 있습니다。だから、東京から京都駅へ向かう新幹線は、「エ」の方向に向かっています。「エ」では、海が見えないので、けいこさんが乗った新幹線は、「イ」のあたりを走っていることが分かります。

C：答えは「ア」でもよいと思います。けいこさんは東京駅から京都駅に向かっていますが、寄り道する可能性も考えられます。このように（地図帳をもって）、東京駅から北に向かって、東北新幹線に乗るとしたら「ア」という可能性があります。

C：「向かうとちゅう」というのは、寄り道してはいけないと思います。

C：「とちゅう」ですから、最後に到着すれば、よいはずですよ。

C：（国語辞典を見ながら）「とちゅう」は目的の場所に着くまでの間ですから、「ア」でもよいと思います。

C：それでは「向かう」ことにはならないと思います。

C：「とちゅう」は、そのとき、そちらへ向かっていなければいけないと思います。

C：問題には、「もっともふさわしい」と書いてあります。「寄り道」は、最もふさわしいとは言えないと思います。

教師の発問を工夫することで、回答を求めることが目的であった学習活動から、なぜその回答になったのかという理由や、その妥当性、または他の回答の可能性などを探り、そのことを表現する活動を意図的に取り入れた指導を行うことができる。

(2) 読解力の向上を図るための指導の工夫

本研究では、「読解力向上プログラム」の学校で取り組む3点の重点目標を基に、指導の工夫を次のように設定した。また、この目標に沿って、読解力の向上を図るための指導事例一覧表及び指導事例を作成した。

本研究では、教科の内容と読解力を関連付け、以下のような活動を中心に指導の工夫を行った。

指導の工夫	読む活動	文章・資料を理解・評価しながら読む活動を取り入れる。
指導の工夫	表す活動	文章・資料に基づいて自分の考えを表す活動を取り入れる。
指導の工夫	機会の充実	様々な情報の中から大切な情報を選び、それを活用させる。

目標 については読んで考える学習を中心に、目標 については読んだことを基に考え、それらを表す学習を中心に取り組む。目標 については、目標 の学習を支える基礎または発展として、その機会を充実させていくようにする。

(3) 読解力を向上させる機会や場

学習指導要領の総則では「学校生活全体を通して、言語に対する関心や理解を深め、言語環境を整え、児童（生徒）の言語活動が適正に行われるようにすること。」と示している。さらに、文部科学省はPISA調査（読解力）の結果を踏まえた指導の改善の中で「読解力は、国語だけではなく、各教科、総合的な学習の時間など学校の教育活動全体で身に付けていくべきものであ

り、教科等の枠を超えた共通理解と取組の推進が重要である。」と、説明している。これらのことから、本研究における読解力は、すべての教育活動の中で育てるものであると考えた。

研究の具体的内容

1 読解力の向上を図る指導の工夫

指導の工夫 に合わせて読解力の構成要素から見た目指す児童・生徒の姿を示し具体的な手だての例を考えた。児童・生徒の実態に合わせて、指導の工夫を選択し、各教科等で具体的な手だてを基に指導する。このことにより、読解力が身に付いた児童・生徒の様子を明確にとらえることができ、読解力の評価に生かすことができる。

以下の表を基に、各学校・学級では児童・生徒の実態等に応じて具体的な手だてを設定する必要がある。

指導の工夫	読解力の構成要素	目指す児童・生徒の姿	具体的な手だて
指導の工夫 読む活動 文章・資料を理解・評価しながら読む活動を取り入れる	取り出す	文章・資料の内容を正確に読み取ることができる。	順序を表す言葉や文末の表現、段落の構成など文章を読み取るために必要な事項に着目したり、見付けたりするよう指導する。 式・地図などから必要な情報を取り出すために記号の読み方等を指導する。
	まとめる	読み取ったことの原因や根拠を、文章・資料の中から探すことができる。	何のために、何を読み取るかを明確に示した上で、必要な箇所にラインを引かせるなど原因や根拠を探する方法等を指導する。 違うところ、似ているところなど、観点を明確にして表やグラフなどの資料を比較し、自分の考えをもたせる。
	創り出す	読み取ったことについて、自分の知識や経験を踏まえて評価・判断することができる。	児童・生徒自身の知識や経験と比較しながら文章・資料を読ませる。 自分の考えを明確にするために、複数の文章・表・グラフなどを比較・評価させる。
指導の工夫 表す活動 文章・資料に基づいて自分の考えを表す活動を取り入れる	取り出す	読み取った内容を正しく表現することができる。	疑問に思ったことや、最も重要だと思われる部分などを書き出させる。 表すために必要な声の大きさや書き方の約束などを指導する。
	まとめる	読み取った内容を基に自分の言葉で表現することができる。	読み取った内容を、「差異」「優劣」「軽重」などの視点で分類・整理したことを発表させる。 読み取った内容で似ているものや違うものなどを関連付けて、表現させる。
	創り出す	今までの経験などと結び付けて自分の考えを表現することができる。	読み取ってまとめた情報と知識や経験などを結び付け、新しい解決策を自分の言葉や方法等で発表させる。 まとめた情報を今までの経験や意見などを基に、相手に分かりやすく工夫して表現させる。

指導の工夫	具体的な手だて
指導の工夫 機会の充実 様々な情報を活用することで、読む活動・表す活動を充実させる	学習課題を明確にして、様々な文章や資料などを読ませ、その特質が分かるようにする。
	同じ作者の他の作品や同じシリーズの本などを読む機会を設ける。
	論理性の高い文章や優れた表現などに触れる機会を設ける。
	学習活動の中で自分の意見を述べたり書いたり友達の意見を聞いたり、読んだりする機会を充実させる。
	目的や条件などを明確にして、自分の考えを述べたり書いたりする機会を設ける。
	論理的・説明的な文章に対する自分の意見を述べたり書いたりする機会を意図的につくる。

2 読解力の向上を図るための具体的事例

読解力向上のための指導事例一覧表の中から、国語科、算数科及び理科における読解力向上のための授業実践を行い、指導事例として示した。また、学習指導案には、読解力向上のための重点目標とともに、本研究における読解力の構成要素とした「取り出す」「まとめる」「創り出す」という学習活動に合わせて、本単元で身に付ける読解力を児童・生徒の目指す姿として示した。

指導の工夫 読む活動

(1) 小学校第3学年算数

単元名 「表とぼうグラフ」

単元の目標

資料を分類整理して表や棒グラフに表したり、それらを読み取ったりすることができる。

単元の評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
<p>ア 表やグラフは、資料を整理して読み取ったことを伝える手段としての働きがあることに気付く。</p> <p>イ 身の回りの事象について、学習したことを生かしながら、資料を分類整理し進んで表やグラフに表したり読んだりしようとしている。</p> <p>ウ 工夫されているところを見付けようとして、友達が作ったグラフを読んでいる。</p>	<p>ア 資料を分類整理するとき、目的に合った分類の観点を選んだり、資料に落ちや重なりがないように項目を考えたりする。</p> <p>イ 資料の集計に誤りがおきにくいような方法を考える。</p> <p>ウ 棒グラフをかくとき、適切な目盛りの取り方や最小目盛りの値を考える。</p>	<p>ア 資料を分かりやすく分類整理して表にまとめ、適切な目盛りを取り、目的に合った最小目盛りを用いて棒グラフに表している。</p> <p>イ 表や棒グラフを見て、最大や最小の値をとらえたり、全体的な特徴を読み取ったりしている。</p> <p>ウ 簡単な二次元の表について、二つの観点から読み取っている。</p>	<p>ア 資料を分類整理して表にまとめる方法を理解している。</p> <p>イ 棒グラフの読み取り方、かき方を理解している。</p> <p>ウ 簡単な二次元表の仕組みを理解している。</p>

単元の指導・評価計画（総時数 10 時間）

目標（時間）	主な学習活動	評価規準	読解力の構成要素・指導の工夫
資料を分類整理し、その結果を表にまとめる方法を理解する。 （2時間）	<ul style="list-style-type: none"> 「正」の字を使い、資料の数を種類別に整理し、結果を表に表す。 「その他」や「合計」の意味を理解する。 	<p>関ア 考ア 表・処ア 知・理ア</p>	
棒グラフの読み方や棒グラフにあらわす方法を理解し、棒グラフを読んだりかいたりする。 （5時間）	<ul style="list-style-type: none"> 表と棒グラフや、2つの棒グラフを比べたりしながら、棒グラフの有用性について考える。 1目盛りの大きさや項目の順序など棒グラフの仕組みや工夫について考える。 整理した表から、棒グラフに表す方法を考える。 項目のとり方、目盛りの大きさ等の順でかく。 	<p>考イ 表・処イ</p> <p>考えウ 表・処イ 知・理イ</p>	<p>まとめる（読む活動） 表と比べ、棒グラフの分かりやすい点を見付ける。</p>
簡単な二次元の表を読み、その有用性を理解する。 （3時間）	<ul style="list-style-type: none"> 3か月間のジャンル別本の貸し出し冊数をまとめた3つの一次元表を読む。 3つの表をまとめた二次元の表に数を書き入れた後、この二次元の表を読み、有用性を考える。 「3年生のすきなもの」について二次元表にまとめ、棒グラフに表し、特徴を読み取る。 グラフの工夫について考える。 	<p>関イ 表・処ウ 知・理ウ</p> <p>関ウ 考ア</p>	<p>まとめる（読む活動） 一次元表と比べ、二次元表の分かりやすい点を見付ける。</p> <p>まとめる（読む活動） 資料からまとめる観点を明らかにして、自分の考えをもつ。</p>

本時の学習（第9時・第10時 / 全10時間）

指導の工夫 読む活動

ア 本時のねらい

- ・二次元表から学級・学年・好きな遊び等の特徴を読み取る。

イ 本時の展開

まとめる

資料から読み取れる特徴を整理して記述する。

学習活動	評価規準 指導上の留意点																												
<p>第9時 すきな外遊び調べの表から何が分かるでしょうか</p> <p>1 課題を把握する。</p> <p>2 見通しをもつ。 T：アンケートを集計した資料を見ましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>どうすれば表から新しい発見ができるでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">まとめる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>発問の意図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめる観点を与えるのではなく考えさせる。 ・観点が効果的であるかを判断させる。 </div> <p>C：それぞれの学級の数字が一番多いものを探す。</p> <p>C：1組と2組で違うところや同じところを探す。</p> <p>3 自力解決する</p> <p>T：好きな外遊びについて、1組と2組とを比べて、どんなことが分かりますか。</p> <p>C：サッカーは1組も2組も数字が一番多い。サッカーはどちらのクラスでも人気がある。</p> <p>C：縄跳びは2組では3位なのに、1組では5位だ。縄跳びは2組では人気が高いのに、1組ではあまり高くない。</p> <p>4 解決を紹介し合う。</p> <p>T：友達の見意見を聞いて、分かったことをノートに書きましょう。分かったことのわけも書きましょう。</p> <p>C：似ているところは、1組も2組も、サッカーの人気が高いということです。それは、1組も2組もサッカーを選んだ人が一番多いからだ。</p> <p>C：縄跳びは、2組では人気がありますが、1組ではあまり人気がありません。なぜかという、2組は8人で3位ですが、1組は3人で5位だからです。</p>	<p>1組2組の集計を二次元の表にまとめて提示する。</p> <p style="text-align: center;">好きな外遊び調べ（人</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>組</th> <th>サッカー</th> <th>ドッジボール</th> <th>野球</th> <th>なわとび</th> <th>一輪車</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>67</td> </tr> </tbody> </table> <p>情報のまとめ方を児童から出させ、出ないものについては教師が提示する。</p> <p>観点に基づいてかきやすいよう文型を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>分かったことを書きましょう。</p> <p>わたしは()について調べました。</p> <p>(にしているところは、)</p> <p>(ちがうところは、)</p> </div>	組	サッカー	ドッジボール	野球	なわとび	一輪車	合計	1	12	8	5	3	5	33	2	13	9	3	8	1	34	計	25	17	8	11	6	67
組	サッカー	ドッジボール	野球	なわとび	一輪車	合計																							
1	12	8	5	3	5	33																							
2	13	9	3	8	1	34																							
計	25	17	8	11	6	67																							
<p>第10時</p> <p>5 自力解決する</p> <p>T：比べたことがよく分かるように工夫してグラフをかきましょう。</p> <p>T：グラフをかく時に工夫したことを書きましょう。</p> <p>6 発表し学び合う。</p> <p>T：班の中で、紹介するグラフと発表者をそれぞれ決めましょう。</p> <p>T：同じ班や違う班の友達のグラフを見て、1組と2組の違いが比べやすかったものはありましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>それは、どんなところが工夫されていたからですか。</p> <p style="text-align: center;">まとめる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫したことに対し、理由も書くように指示する。 ・どのグラフからも共通して言えることを見付けさせる。 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>サッカー ドッジボール 野球 その他</p> <p>■1組 ■2組</p> </div> <p>C9：左のグラフが比べやすかったです。なぜかという、1枚のグラフにまとめて、スポーツの種目ごとに1組と2組と並べてかいてあるからです。</p>	<p>表から様々な情報を読み取り、それに合わせた表現方法を考える。</p> <p>比べやすくするための観点に気付かせるために、グラフの例を提示し、何をそろえたらいいのか考えさせる。</p> <p>友達のグラフの工夫したところに気付くことができるよう、お互いのグラフを紹介し合う場を設定する。</p> <p>読み取ったことを、工夫してグラフに表す方法を考えている。</p>																												

(2) 中学校第2学年国語

単元名 生き方について考えよう

教材名 「走れメロス」

単元の目標

登場人物の生き方や考え方などを比較し、主題について自分の考えをもつことができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
ア 登場人物の生き方や考え方についてすすんで考えようとしている。	ア 登場人物の性格・心情の変化・生き方・考え方を読み取っている。 イ 場面ごとの出来事を正確に読み取り、人物の心情の変化をとらえ、生き方、考え方について比較しながら読んでいる。 ウ 主題について考えている。	ア 文中の語句の意味を正しく理解し、適切な使い方をしている。

単元（題材）の指導・評価計画（総時数5時間）

目標（時間）	主な学習活動	評価規準	読解力の要素・指導の工夫
本文中の漢字の読み、書きができる。本文中の難語句の意味を正しく理解し、使うことができる。物語のあらすじを理解し、登場人物についての感想をもつ。 （1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ワークブック（副教材）を使って、教材文中の漢字の読みと書き方を確認する。難語句の意味を確認し、短文を作る。 教材文の範読を聞き、粗筋をつかむ。 登場人物を確認し、それぞれの人物について自分の感想をまとめる。（メロス・ディオニス王・セリヌンティウス） 	関ア 言ア	
物語全体の背景や設定について理解する。 （1時間）	<ul style="list-style-type: none"> 第1場面から第3場面までを読み、メロスと王及びメロスを囲む人物達の生き方や考え方を読み取る。 	関ア 読ア	
登場人物の心情を読み取り、主題を考える。 （2時間）	<ul style="list-style-type: none"> 第4場面を読み、メロスと王との共通点に気付く。 第5場面を読み、水の音に心の目を覚まされるメロス、再び走り出したメロスの様子や心情を読み取る。 第6場面を読み、メロスとセリヌンティウスの様子を見て改心した王の心情に着目し、主題を考える。 	関ア 読ア 読ア 読ウ	<p>まとめる 叙述に即して王とメロスを比較しながら読むことによって、二人の共通点・人間の多面性に気付かせる。</p> <p>創り出す 実生活を振り返らせるために、自分の知識や経験と関連付けて、主題について自分の考えをもたせる。</p>
主題について友達と話し合い、自分の考えを書く。 （1時間）	<ul style="list-style-type: none"> グループで主題について考えたことを話し合い、考えを深める。 意見交換を生かし、主題について自分の考えを書く。 	読ウ	<p>創り出す 自分の知識や経験と照らし合わせるとともに友達の見聞も参考にし、主題についての自分の考えをまとめ、書かせる。</p>

本時の学習（第4時 / 全5時間）

指導の工夫 読む活動

- ア 本時のねらい
 - ・登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考える。
- イ 本時の展開

● まとめる ● 創り出す

登場人物の生き方や考え方を基に、自分の経験と照らし合わせることで主題について考える。

学習活動	評価規準 指導上の留意点
1 前時の学習を振り返る。 2 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">メロスを再び走らせたもの、王を改心させたものについて考えよう</div>	
3 メロスが再び王のもとへ向かうために走り出す場面を読んで、メロスの心情を読み取る。 4 メロスを再び走らせた「水の音」について考える。 5 第6の場面を読み、王の心の変化を読み取り、これからの生き方について考える。 6 途中で走るのをやめようとしたが、再び走り出したメロスと、何かのきっかけで暴君となったが、メロスたちによって改心した王の共通点を読み取り、「人間の多面性」「心の弱さと目覚め」「人として大切なこと」等、主題を考える。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 300px;"> メロスと王の心情を学習してきました。この作品で作者が伝えたかったことはなんでしょうか。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめる</div> </div> <div style="margin: 0 10px;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">発問の意図</div> 根拠を文章の中から探して読み取ったことをまとめ、主題を考えさせる。 </div> </div> 7 自分がこの作品から学んだこと、感じたことを短い文章にまとめる。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 250px;"> この作品からあなたは何を学びましたか。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">創り出す</div> </div> <div style="margin: 0 10px;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">発問の意図</div> 実生活を振り返らせるために、自分の知識や経験と関連付けて、主題について自分の考えをもたせる。 </div> </div>	メロスに関する叙述と王に関する叙述をそれぞれ違う色の板書カードに書くことによって比較しやすくし、二人の登場人物の共通点に気付かせる。 「心の弱さ」という言葉をヒントとさせ、それによってメロスや王は何を見失ってしまったのか、「心の弱さ」を克服することによって何が得られたのかを考えさせる。 主題を考えるための視点をもたせるとき、常に文章に基づいているかを確認させる。 根拠を文章の中や自分の経験などから明らかにし、自分の考えをもっている。
8 次時はこの作品の主題について自分の考えを書き、友達と交流しあうことを確認する。	

指導の工夫 表す活動

(3) 小学校5年国語

単元名 目的に応じた伝え方を考えよう

教材名 「工夫して発信しよう」

単元の目標

情報を伝えるためには何が大切であるかを考え、取材した話題を効果的に伝えることができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
ア ニュース番組を作る過程や、ニュースを伝える時、大切なことを理解しようとしている。 イ 伝えたいことを中心に、ニュース番組の構成や原稿等を工夫して効果的に伝えようとしている。	ア 事実と感想、意見などを区別するとともに、伝えたいことに応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。	ア 教材文を読んだり、自分たちで選んだ話題を取材したりして、伝えたいことを中心に効果的に伝わるような構成(情報の選択、配列)原稿の記述になっているか、自分の考えを明確にしている。	ア ニュース番組を作るのに必要な語句を調べたり、使ったりしている。

単元の指導・評価計画(総時数9時間)

目標(時間)	主な学習活動	評価規準	読解力の構成要素・指導の工夫
教材文「工夫して発信しよう」を読み、ニュース教材を使って、実際にニュース番組を作る過程や、伝えたいことを中心に効果的に伝えるために大切なことを理解する。(2時間)	・教材文を読み、ニュース番組を作る過程を理解するとともに、ニュース構成教材を使って、伝えたいことを中心に効果的に伝えるための構成(情報の選択や配列の工夫)をする。	関ア 読ア	まとめる 創り出す (読む活動) ・伝えたいことを中心にニュース構成教材のカードの内容を読み合い、根拠を明らかにしながら話し合って構成をする。
	・ニュース教材を使って、伝えたいことを中心に効果的に伝えるための構成(情報の選択や配列の工夫)原稿の記述の仕方大切なことを理解する。	関ア 読ア	まとめる (読む活動) ・ニュース原稿教材を読んで、ふさわしい書き方を考える。
取材した内容を基に、自分たちでニュース番組を作り、発信する。(7時間)	・話題やそれについての疑問、知りたいこと等を話し合うとともに、誰に、どのような方法で伝えるか、を決める。	関イ	
	・取材する方法や計画を決める。	関イ	
	*取材する(課外)		
	・取材して得た情報を整理し、伝えたいことを中心に明確にする。	関イ	まとめる 創り出す (表す活動) ・伝えたいことを中心に取材カードの内容を読み合い、根拠を明らかにしながら構成について話し合う。
	・ニュース番組のおよその内容と構成を作り、原稿を書く。	読ア 書ア	まとめる 創り出す (表す活動) ・情報カードの構成を操作しながら話し合い、根拠を明らかにしながら意見を述べる。
	・グループ同士でニュースの構成(テキスト)を読み合い、交わされた意見を基に原稿を修正する。	読ア 書ア	
	*撮影する(課外)		
	・ニュース番組を編集する。集めた材料(撮影したもの)を、目的に応じて選択、配列し、加工する。	関イ	
	*ニュースを発信する(課外)		
	・情報の伝え方について自分の考えをまとめる。		

本時の学習（第7時 / 全9時間）

指導の工夫 表す活動

● まとめる

情報を伝えるために大切なことは何かを考え、根拠を明確にする。

● 創り出す

交流した内容について評価・判断して表す。

ア 本時のねらい

大切なことは何かを考えてニュース原稿を読み、伝えたいことの中心が効果的に表されているかを確認するとともに、必要に応じて原稿の修正をする。

イ 本時の展開

学習活動	評価規準 指導上の留意点
<p>1 課題を把握する。</p> <p>ニュース原稿を読み合い、交流を基に修正をしよう</p> <p>2 情報を伝えるために大切なことを基に、グループ同士で原稿を読み合い、意見を交わす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>他のグループの発表を聞いて、根拠をはっきりと伝えながら意見交換をしよう。</p> <p style="text-align: right;">まとめる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">発問の意図</p> <p>構成や記述について、根拠を明らかにして発言させる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜情報を伝えるために大切なこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことにかかわりのある情報を選ぶ。 ・伝えたいことの中心がより伝わりやすい配列を工夫する。 ・聞く人にわかりやすい記述にする。 </div> <p>(1) 各グループ、半数は自グループに残り、半数は他グループの構成を見て回る。 見て回る者と自分のグループに残っている者との間で質疑応答をする。</p> <p>(2) 役割交代して「(1)」の活動を行う。</p> <p>(3) 自分のグループの構成を修正する。</p> <p>3 交流で交わされた意見を基に、原稿を修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なるほどと思った意見を参考にしながら原稿を修正しよう。</p> <p style="text-align: right;">創り出す</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">発問の意図</p> <p>交流で得た意見や感想について、伝えたいことの中心を基に評価・判断して修正させる。</p> </div>	<p>伝えたいことの中心が効果的に伝わるような構成（情報の選択、配列）原稿の記述になっているか、自分の考えを明確にしている。</p> <p>情報を伝えるために大切なことを掲示し、意識して交流させる。</p> <p>取材カードを操作したり原稿を音読したりしながら、構成や記述について話し合いができるようにさせる。</p> <p>交流で意見を述べる時、根拠を述べるように助言する。</p> <p>修正が必要かを判断し、効果を考え、加筆や削除等をしている。</p>

(4) 小学校第5学理科

単元名 「流れる水の働き」

単元の目標

地面を流れる水や川の様子を観察し、時間や水量、自然災害などに目を向けながら調べ、問題を見付け計画的に追究する活動を通して、自然の力の大きさを感じ、流れる水の働きの規則性について見方や考え方を養う。

単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象への知識・理解
ア 地面を流れる水や川の流れる様子に興味・関心を持ち、自ら流れる水の速さや量による働きの違いを自然災害に目を向けながら調べようとする。 イ 増水で土地が変化することなどから自然の力の大きさを感じ、川や土地の様子を観察しようとする。	ア 流れる水と土地の変化の関係について、条件に着目して実験の計画を考えたり、結果を考察したりすることができる。 イ 実験で見いだした決まりを実際の川に当てはめて考えることができる。	ア 流れる水の速さや量の変化を調べる工夫をし、モデル実験の装置を操作し、計画的に実験をすることができる。 イ 安全で計画的に屋外観察を行ったり、映像資料などを活用したりして調べ、記録することができる。	ア 流れる水には、土地を削ったり、石や土などを流したり積もらせたりする働きがあることを理解している。 イ 雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があることを理解している。

単元の指導・評価計画（総時数 11 時間）

目標（時間）	主な学習活動	評価規準	読解力の構成要素（指導の工夫）
増水した川の様子や洪水による被害を知ることから、流れる水の働きについて予想を立てる。 （2時間） 予想を確認するための実験を通して、流れる水の働きを記録する。 （3時間） 実験結果を基にまとめを書き、流れる水の働きについてまとめる。 （2時間）	・流れる水の量を変えると、流れる速さや流れる水の働きはどう変わるかを経験に照らして推論し、予想や実験方法を、条件制御の観点から書くことができる。 ・流れる水の量によって3作用（削る、運ぶ、積もらせる）の働きの違いが現れることを観察し、記録することができる。 ・実験結果から分かったこと、考えたことをまとめ、流水の働きと水量の関係について理解する。	関ア 思ア 知・理ア 技・表ア	取り出す （読む活動） ・テキストを比べる視点を明確にし、流れる水の量と、速さや働きの関係を考える。 ・実験から、流れる水の働きを数字や色、様子などで読み取り、表にまとめる。 まとめる （表す活動） ・結果（事実）のデータを整理し、考察（意見）を書かせるときに文型を使い、簡潔に書く。
実験結果と実際の川の様子を関係付けて考え、流水の三作用が、土地の様子を変えていることをとらえる。 （2時間）	・流れる水の働きについて、流水実験と実際の川の様子とを関係付けながら自分の考えを書き表す。	思イ	まとめる （読む活動） ・流水の働きの視点から、実際の川の様子を観察し、気付いたことを整理する。 ・石などの変化から、流水の働きについて推測し、理解を深める。
学んだことを生かし、洪水を防ぐなどの方法を考え、「川と共に生きる町づくり」プランを絵や図を使って発表する。（2時間）	・今まで学んだことを生かしながら、インターネットや図書資料を使って、洪水を防ぐ方法を調べ、まとめることができる。	思イ 技・表イ 知・理イ	創り出す （読む活動） ・資料から目的に応じた内容や、自分の考えの根拠となる内容などを選び出す。 創り出す （表す活動） ・文型を使い、事実と意見が明確な文章に書く。 ・「川と共に生きる町づくり」について図やグラフなどを入れて表す。

本時の学習（第6時 / 全11時間）

指導の工夫 表す活動

● 取り出す ● まとめる

実験結果（事実）を根拠に、まとめ（分かったこと、考えたこと）を表現する

ア 本時のねらい

実験結果を基にまとめを行い、流れる水の働きについて理解する。

イ 本時の展開

学習活動	評価規準 指導上の留意点
<p>1 本時の学習のめあてや学習活動について知る。</p>	
<p style="text-align: center;">実験結果を基にまとめを考え、流れる水の働きについて明らかにしよう</p>	
<p>2 予想と実験結果をそれぞれ発表しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">取り出す</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 50px;"> <p style="text-align: center;">発問の意図</p> <p>予想と結果を比べ、事実を取り出す視点をもたせる。</p> </div>	<p>まとめを書く時の文型を拡大し、黒板に掲示する。</p> <p style="text-align: center;">まとめの書き方例</p>
<p>3 比べるためには、条件をそろえることなど比べる観点を振り返り「まとめ」を書く。</p> <p>(1) 「まとめの書き方」を知る。</p>	<p>(1) 予想と結果が同じだった。(違った)</p> <p>(2) ~結果から、~ということが分かった。</p> <p>(3) ~と予想したけれど、実験結果は、~だった。~ということが分かった。</p> <p>(4) ~結果から、私は~だと考えた。</p> <p>(5) ~と予想した(けれど)(が)実験結果は、~だった。私は~だと考えた。</p>
<p>黒板に掲示した「まとめの書き方」を参考に、分かったことや考えたことを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">まとめる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 50px;"> <p style="text-align: center;">発問の意図</p> <p>まとめは根拠が基になっていることを知らせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想と結果が一致したかどうかを書く。 ・ まとめでは、実験結果から分かったこと、考えたことを書く。 <p>(2) 「まとめ」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想どおりだった。川が曲がっている場所では、外側が削られた結果から、水の働きによって、外側が削られることが分かった。 ・ 予想通りだった。外側の土団子は流され、真ん中の土団子は半分削られ、内側は削られず、動きもしなかった結果から、川が曲がった外側は流れが速くて、内側は遅いことが分かった。 ・ 予想通りではなかった。内側も削れると思ったが、外側が削れるだけの結果だった。このことから、内側よりも外側の方が、水の力は大きいことが分かった。 	<p style="text-align: center;">話し合いのポイント例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 流れる水の働きにはどのようなものがあるか。</p> <p>2 流れる水がどのようになると、働きが強くなるのか。</p> </div>
<p>4 グループで話し合い、流れる水の働きについてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">そのことからどのようなことが分かりますか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 50px;">まとめる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 50px;"> <p style="text-align: center;">発問の意図</p> <p>まとめから新たな課題を発見させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流れる水には、地面を削ったり、削った土を運んだり、積もらせたりする働きがある。 ・ 流れる水の量が多くなると、削る、運ぶ、積もらせる働きが大きくなる。 ・ 流れる水が速いと、削る、運ぶ働きが大きくなり、遅いと積もらせる働きが大きくなる。 ・ 流れる水には、土を削る働きと運ぶ働き、積もらせる働きがある。 	<p>友達と自分のまとめを比較しながら、共通点、相違点についてまとめ、相違点について話し合いをさせる。</p> <p>水量の変化によって、流れる水の働きが変化することを理解している。</p>

指導の工夫 機会の充実

(5) 中学校第1学年国語

単元名 古典との出会い

教材名 「いろは歌」「蓬萊の玉の枝 - 「竹取物語」から」「今に生きる言葉」

単元の目標

- ・古典の文章に出会い、昔の人のものの見方や考え方にふれ、現代とのつながりを考える。
- ・古典の作品を読み、展開に即して内容をとらえ、作品に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広める。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
ア 教材文を読み、おもしろい、共感する、不思議だなどといった感想をもっている。 イ 身近な昔話と古文との関わりに興味をもっている。	ア 語注や現代語訳を参考に物語のあらすじをつかみ、内容を理解した上で音読している。 イ 図や文章から情景や人物の心情を想像して、現在の人々の暮らしぶりと比較して考えている。 ウ はじめて読む古文を前後の出来事や語句を参考に類推して読んでいる。	ア 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めて読んでいる。 イ 古語の意味や言葉遣いを理解している。

単元の指導・評価計画（総時数 11 時間）

目標（時間）	主な学習活動	評価規準	機会の充実
「いろは歌」を音読し、現代語訳と比べ、感想を交流する。（2 時間）	・「いろは歌」冒頭分を音読し、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いを比較し、理解する。	関ア言ア	単元構成の工夫を行い、教科書教材だけでなく昔話という複数の古典作品を読む機会の設定をすることで読む活動や読んだことに関連付けて自分の感じたことを表す活動が充実する。
	・現代語訳と聞き比べ、言葉の響きに注目して感想を交流する。	関ア	
「竹取物語」を読み、物語のおもしろさや現在の表現との違いを味わう。登場人物の様子や心情を自分と重ねて考えたり、原文にふれ、教材文にはない部分の様子や心情を考えたりすることができる。（5 時間）	・竹取物語の冒頭文を読み、言葉意味や文脈を理解し、暗唱する。	読ア言イ	
	・五人の貴公子の冒険譚を読み、話の展開に関心をもたせ、発見したことや疑問点を交換する。	関ア読イ	
	・「蓬萊の玉の枝」の原文と口語訳を比較しながら、内容を理解し、共感できる点やできない点を交流する。	読ア言ウ	
	・翁との別れの場面を読み、人物の心情に迫り、共感できる人物について心情をまとめる。	読イ	
様々な昔話の絵本と原文を比較し、違いやおもしろさに気付く。様々な物語の原文との違いや発見を発表しあい、古典への関心を深める。（2 時間）	・物語の最後を読み、原文と比較し、文中にない部分の人物の様子や心情を考え、文体に即して後日談を書く。	読ウ	
	・様々な昔話の絵本と原文を比較し、一部分については、グループで現代語訳を行う活動を通して、違いやおもしろさを見付ける。（本時）	読ウ	
故事成語の成り立ちを理解し、現代でも活用していることを確認する。様々な故事成語を調べ、作文に活用する。（2 時間）	・グループごとに絵本と昔話の原文の違いや発見を紹介し、さらに古典への関心を深める。（本時）	関イ	
	・「矛盾」を読み、あらすじを理解し、漢文調の文体の特徴を味わう。	関ア	
・便覧を使って故事成語の意味と成り立ちを調べ、正しい用法を理解する。	言イ		

本時の指導（第8時・第9時 / 全11時間）

指導の工夫 機会の充実

単元構成の工夫を行い、教科書教材だけでなく昔話という複数の古典作品を読む機会の設定をする。

ア 本時のねらい

第8時：身近な昔話の原文と絵本から、違いや発見を読み取ることができる。

第9時：読み取ったことの発表会を開き、古典に対して自分の考えをもつことができる。

イ 本時の展開

学習活動	評価規準 指導上の留意点
<div data-bbox="181 499 293 539" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第8時</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題を把握する。 2 グループごとに選んだ絵本を音読し、あらすじを確認する。 伊曾保物語（- ありとせみ -） 桃太郎 浦島太郎 3 原文と現代語訳を読み、絵本のどの部分に該当するか検討する。 4 相談しながら、原文の一部分を現代語に訳す。 5 絵本と原文の違いや気付いたことを話し合う。 6 ワークシートに各自の考えを書き出した後、グループで模造紙に簡潔にまとめる。 	<div data-bbox="485 499 1310 589" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 昔話の原本と絵本を読み、古典への関心を深めよう - 絵本と原文を比べ、違いや気付いたことをまとめよう - </div> <div data-bbox="778 707 1362 891" style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div data-bbox="995 734 1142 770" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">機会の充実</div> 竹取物語と違う昔話を与え、原文と絵本の違いを比べながら読ませる。 </div> <p>述語を抜き出し主語を明確にした上で文脈上該当すると考えられるところを推測するよう助言する。全文の現代語訳を用意する。また、一部分の現代語訳がしやすいようにヒントカードや古語辞典を用意するとともに、考えを書き込みやすいワークシートを用意する。 絵本と原文（現代語訳を活用）を比較して異なる部分や発見したこと書いている。</p>
<div data-bbox="181 1337 314 1377" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第9時</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題を把握する。 2 グループごとに昔話の原文の一部を音読する。 3 グループごとにそれぞれの昔話について発表し合う。 ・原文の内容の紹介 ・グループでの気づきや発見の発表 4 グループごとの発表を聞き、自分の感想を書く。 5 感想をグループで交流する。 	<div data-bbox="485 1337 1310 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 昔話の原本と絵本を読み、古典への関心を深めよう - 発表をしたり聞いたりして、古典への関心を深めよう - </div> <p>グループの発表を聞くときにはメモを取りながら聞き、その後感想を書き込めるようなワークシートを用意する。 感想を書くときのポイントを知らせる。 グループの発表を聞き、古典に対する自分の意見を持ち、感想を書いた後、話し合っている。</p> <div data-bbox="767 1693 1437 1877" style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div data-bbox="1027 1720 1174 1756" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">機会の充実</div> 自分のグループの話だけでなく、竹取物語や様々な古典に関連付けて、自分の感想を書かせる。 </div> <p>交流した感想を数人に発表してもらい、他にも原文があることを紹介する。</p>

研究の成果及び課題

1 研究の成果

文部科学省ではPISA調査の結果を踏まえ、PISA型読解力を高めていくための検討がなされた。

また、学校教育での読解力に関する指導の在り方についてどのような課題があるかという分析が行われた。

さらに、文章の解釈や論述の力を高める指導及び読書活動の推進方法等の検討が行われ、「読解力向上プログラム」として3つの指導目標及び以下の5点の重点戦略が示されている。

- (1) 学習指導要領の見直し
- (2) 授業の改善・教員研修の充実
- (3) 学力調査の活用・改善等
- (4) 読書活動の支援充実
- (5) 読解力向上委員会（仮称）設置

本研究においては、(1)から(5)までを鑑み、特に(2)の授業改善に焦点を当てた。文部科学省による「読解力向上プログラム」で示された3つの重点目標に沿った各学校の改善の取組を支援するため、新たに読解力の構成要素として3つのキーワードを提案し実践を行った。

本研究の成果としては、次の2点が挙げられる。

- (1) 読解力の構成要素を「取り出す」「まとめる」「創り出す」として示したことである。これらの構成要素により、読解力の評価及び指導のねらいに応じた手だてを提案し、授業改善に生かす実践を行ったこと。
- (2) 読解力が身に付いた児童・生徒の姿を示し、指導の工夫との関連を示したこと。

上記の実践により、各学校においては、教科国語を中心としつつ、各教科、総合的な学習の時間等を通じて、読解力向上の取組を行う方向性を示すことができた。

2 今後の課題

本研究で示した読解力の構成要素を基に、各学校が読解力に対する理解を深め、授業改善を進める際の支援となる検証を続けなければならない。

具体的には、5点の重点戦略について、それぞれ次のような方向で対応していくための研究が必要であると考えている。

- (1) 来年度以降新たな学習指導要領においても今回の研究を各学校の実践に生かす支援を行うこと
- (2) 授業改善の取組が各学校でどのように行われるべきかというマネジメントサイクルや研修の視点での提案を行うこと
- (3) 読解力に照準を合わせた全国学力調査が行われる場合の活用方法を提示すること
- (4) 読書活動を充実させるための指導方法を提示すること
- (5) 学校のみならず地域や家庭との連携の具体的な方法を提示すること